

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関及びリビングに基本理念を掲示しています。 日頃から理念の中の”家庭的” ”健康” ”地域”を大切にしています。	○  利用者・家族・スタッフが目にしやすいよう配慮しています。また、利用者の中に「基本理念」を居室にも掲示している方もおられます。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体ミーティング、ユニットカンファレンス時に理念を共有しています。	○  内部研修を開催し、理念の重要性を全スタッフに気付いてもらうようにしたいです。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームでの行事（主に納涼祭）には、地域・家族の方々に参加していただき、ホームの理解に取り組んでいます。	○  地域での行事に利用者スタッフの参加だけでなく、家族にも呼び掛けていきたいです。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方々とは、毎日あいさつしたり、世間話をしたりしています。 地域で開かれる行事にも積極的に参加し、顔見知りの関係を増やして行っています。	○  現状を継続していきながら、今後は認知症普及活動などにも参加して行きたいです。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在行っているサービスの振り返りにもなるため、自己・外部評価は良い機会だと考えています。	○	改善点があれば運営者・管理者・スタッフで話し合っ解決に向けて取り組んでいます。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出された意見を取り入れて、更なるサービス向上を目指しています。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことや相談したいところはすぐに、市町村担当者、地域包括支援センターなどに相談しています。 市へホームのパンフレットや広報誌を配布しています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内で勉強会を開き、スタッフで情報を共有し、参加できないスタッフには資料を配布して説明をしています。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じてスタッフは学ぶ機会を設けています。	○	防止のみならず、実際にあった場合の対応もホーム独自の方策を打ち出しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面及び口頭で説明し、承諾してもらっています。	○  不明な点はいつでも問い合わせをしてもうらうように説明をしています。その都度、説明しております。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情があった際には、迅速に対処する体制づくりをとっています。	○  不満、苦情は現在のところ利用者からは出ていません。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回、お手紙（スタッフから家族へ）を出して近況報告をしています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回のお手紙の返事に意見を頂いております。また、面会時にも傾聴しています。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスを行い、スタッフから意見・提案を聞くようにしています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応に努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの離職による欠員の為の異動はありますが、ほとんどなじみのスタッフでケアしています。	○	離職を最小限に抑えるよう、管理面での努力をしていきたいです。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のみならず、内部研修を行い、短時間でも毎月勉強会を開催しています。 外部・内部の研修の年間計画も立てています。	○	全スタッフに段階に応じて参加できるようにすることを目標にしています。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修に参加し、同業者との交流を深めています。 スタッフは他のホームの行事に参加したり、相互評価を通じて他のホームとの行き来が出来ます。	○	スタッフが他のグループホームに行く機会をもっと増やしたいです。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年数回、懇親会を設けスタッフ同士のコミュニケーションが取れるように努力しています。	○	日頃から何でも話ができるような人間関係を築いていきたいです。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に協力し奨励しています。	○	昇給や賞与に関して、勤務状況に反映させていけるようにします。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人・家族とは情報交換を行っており、傾聴の姿勢で不安のないよう、また、困りごとを解消出来るように支援しています。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、より良い支援をするようにしています。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者自身が、馴染めるようにゆっくりと時間をかけて、暮らしやすい雰囲気を目指しています。また、他利用者とも仲良くなれるように、スタッフが間に入りコミュニケーションを図っています。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から昔話を聞いたり、今日一日あった出来事などをお互い（利用者、スタッフ）に言い合い、受身ばかりの立場にはしていません。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ側からの意見ばかりを述べるのではなく、家族側からの意見・要望を聴き、共に利用者を支えていくように努めています。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係が良い状態を継続できるように、利用者の近況を月に1回のお手紙で伝えるようにしています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族との外出時に、特に制限を設けず、利用者の気持ち、希望に応じて支援しています。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然に仲の良い利用者がお互いに関わり合っています。また、孤立しないようにスタッフが積極的にコミュニケーションをしていくように働きかけています。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も利用者・家族からの相談は随時受けられるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の気持ちを最優先し、その日その日、適時に過ごしていただけるように努めています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの聞き取り、更には家族からも聞き取りを行い、把握に努めています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい個々の生活パターンを把握しています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に月に1回、担当者その他のスタッフを交え、カンファレンスを開催しています。また、家族からの意見も取り入れています。	○ 本人の状態の変化や希望に則って、随時計画内容を変えられるような体制をとっています。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化の際には、関わるスタッフ同士、同じ情報を共有できるように報告、連絡、相談を行い、計画の練り直しをし、ケアにあたっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日記載しています。 その他、申し送りやノートでもスタッフ間で情報を共有しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、多機能性はないので、今後さまざまな事業を取り入れていきたいと思っています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	主に地域のボランティア（レクリエーション）が利用者と一緒に歌を歌ったり、手や指の体操をしてくれています。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者家族から相談があれば、意向、希望に応じ、他の関係者と話し合いの場を設けています。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいて、その都度、助言や相談に乗ってもらっています。 必要に応じ協力もしてもらっています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医を決定しています。本人・家族が往診の契約を結んでいる人もいます。	○	夜間も医療連携体制が整っています。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科の医師がかかりつけ医となり、精神・身体の両面から診てもらい、また、相談できています。専門病院に受診することもできます。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が勤務しており相談出来ています。他に往診の看護師・訪問看護ステーションと24時間、相談できる体制をとっています。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医と入院後も連絡・調整を図り、利用者にとって最善の方法を話し合っています。早期退院に向け情報を提供しています。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重要事項説明書で説明しています。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについての研修に参加し、事業として「できること、できないこと」の指針を運営者と管理者の間で検討中です。	○	現在、緊急時は病院への搬送を希望している入居者がほとんどですが、今後ホームでの看取りを希望する家族とは話し合っていて決めていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の移動に関しては情報提供しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を傷つけるような言葉かけは避け、温かく優しい対応を心がけています。 ケース記録など、記載する際は利用者の居ない時に行ってます。	○	個人のケース記録簿には他利用者の個人名は記載しないようにしております。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できる利用者に関しては、その意思を尊重した対応をしています。 困難な方には、スタッフ側から選択肢を設けて、できるだけ希望に沿えるように支援しています。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日で柔軟な対応をしています。 利用者本人の希望や願いを第一に対応しています。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	清潔感のある身だしなみを利用者の皆様には心掛けてもらうようにしています。		美容に関しては、地域美容師が訪問し対応しています。 利用に関しては出張サービスを利用しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも一緒にテーブルで食事をするように心掛けています。食事中は利用者が楽しめるように、音楽をかけ良い雰囲気作りに取り組んでいます。		栄養士を配置しています。 味だけでなく、見た目や栄養のバランスも考慮された食事内容となっています。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者個々の望みに応じて購入し、楽しめるよう支援しています。		今現在、喫煙者が1名おります。 飲酒希望者はありません。 飲み物、おやつは好みのものを購入し、楽しく美味しく口にしています。
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別のケア内容に添って日々実施しています。利用者個々の排泄パターンを把握し、不快を与えないように努めています。		必要に応じて、排泄チェック表作成し、排泄パターンの把握に努めています。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴日を設定していますが、利用者一人ひとりの希望があれば柔軟に対応するように努めています。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムがあり、食後ゆっくりテレビを観たり、他利用者を会話を楽しんだりしてすごしています。 その後は、自然と各居室に戻りゆっくりと休まれています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に応じて毎日のミニレク（歌、ゲーム、DVD観賞など）の中に楽しみごとを取り入れています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の状態に合わせ、自己管理できる方に関しては制限していません。また、管理できない方に関してはホームで管理しております。		スタッフは利用者が自分でお金を持つという重要性・必要性を十分理解しています。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寒い時期は難しいですが、天候により暖かい日であれば外のベンチに座ってすごしたり、車椅子でのホーム周辺の散策も行っています。	○	個別に付き添った対応（例えば買い物やドライブ）をもっと計画し実施に向けて取組んでいきたいです。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春から秋にかけて、月1回程度の遠足、外出会をマイクロバスを利用して実施しています。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から訴えがある際は、希望に添えるように対応しています。		電話を掛けたい、或いは掛けている利用者はいらぬものの、手紙を出す利用者はまれです。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所された方に関しては、スタッフ一同明るく笑顔で挨拶を心掛けています。		来所された方には飲み物を提供し、ゆったりと過ごせる雰囲気作りを心掛けています。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	知識を共有し、理解に努めています。 今現在、身体拘束はしておりません。今後もしない方向で考えています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、利用者の行動が把握できない”死角”があります。その為、無断で外出しようとする利用者がいて、安全面を考え、玄関にはブザーを設置しています。	○	ブザーを解除する時間帯を設けて、今後取り外しに向けた方向で取り組んでいきたいです。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定期巡回を実施し、安全確認をしています。 日中に関しては、プライバシーに配慮しながら安全確認をしています。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者・家族を話し合いをして、個々の状態に合わせた対応に努めています。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時は、報告書を提出するようにしています。その中で、今後の解決策を重要視し、同じ自己を起こさないようにしています。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急な応急処置に関する講習会に参加してもらっています。また、利用者の急変時のマニュアルを見えやすい所に掲示しています。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備え、定期的な避難訓練を実施しています。 緊急避難場所も決まっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態の変化に伴うリスクを面会時や電話で連絡し、理解を得てケアに取り組んでいます。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から体調の変化に気づくように努め、スタッフ同士情報共有出来る体制づくりをしています。 バイタル測定は毎朝、急変時、入浴前後に行っています。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のケース記録簿に服薬情報カードを添付して、いつでも確認出来るようにしています。 臨時薬があれば、服薬の都度、状態観察をしています。		症状の変化に関して、かかりつけ医に報告し相談するようにしています。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、バイタル測定する際には、排便の聞き取り確認もしています。 水分摂取量のチェックを行い、便秘の要因の一つである、水分摂取量減少についても確認をしています。		栄養士からの食事指導も取り入れています。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯使用者に関しては、夜間洗浄剤を使用しております。 清潔保持に努めています。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分の摂取量の把握をして、各々のケース記録簿に記録しています。		食べる量、栄養のバランスに問題がある場合は、栄養士から指導があります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し、マニュアルも整備されています。また、予防にも全スタッフで取り組んでいます。		毎年、インフルエンザ接種を利用者・スタッフ行っています。 手洗い・うがいを励行しています。
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士が食材を管理しています。また、調理用具など食器乾燥機を導入し衛生に気を配っています。 調理時間も作り置きなどせずに、安全面に気を配っています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはプレートを掛けています。 安心して出入りできるように段差のないスロープになっています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に使ってもらえるように掃除を徹底します。 主に夏場はすだれを下げ、西日への対処や日影が出来るように工夫しています。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで利用者は思い思いに自由に過ごせるようになっています。 ソファやチェアを使用し、新聞やテレビを観たりしてすごしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	愛用されている日用品や家具など居室内に置 き、安心して生活していただけるように配慮して います。	○	居室内は利用者個々に、その人らしく個性的な 飾り付けとなっています。 (ぬいぐるみ、カレンダー、花、時計など)
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	リビング、廊下に温度・湿度計を設置していま す。 適度な状態を保つように努めています。	○	エアコン・ストーブ・扇風機・加湿器を必要に 応じて調整しています。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下には手摺を設置しています。 トイレ内にも手摺を設置し、転倒防止に努めて います。	○	リビングと居室の間に長椅子を置き、歩行され る途中で休めるように、また、利用者同士雑談す る場として自由に活用されています。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室前にネームプレートを掛けています。	○	トイレ内のタンクの蓋を持ち上げる利用者がい る為、「危険」という貼紙をしてケガ防止に努め ています。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	建物内は特に制限を設けず、各ユニットの往 来、事務室へも自由に出入りすることが出来ま す。	○	お手伝いしていただける利用者に関しては、利 用者自ら廊下、玄関の掃除やテーブル拭きなどを スタッフと一緒にしています。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月、スタッフ交代でユニット毎の目標を掲げています。スタッフ一丸となり一カ月間掲げた目標に特に力を入れています。  
入居されている利用者の皆様、働いているスタッフの皆様がこのホームで心地よく過ごせるよう、一日一日を大切にメリハリのある毎日を築いております。